

令和元事業年度

JA赤城たちばなの経営概況

発行 令和 2 年 6 月

赤城橘農業協同組合

〒379-1124

群馬県渋川市赤城町滝沢64-2

TEL 0279-56-4151

FAX 0279-56-4152

目 次

ごあいさつ		
1. 経営理念		1
2. 経営方針		1
3. 経営管理体制		1
4. 事業の概況（令和元事業年度）		2
5. 農業振興活動		2
6. 地域貢献情報		2
7. リスク管理の体制		
(1) リスク管理の基本方針		3
(2) リスク管理体制の内容		3
(3) 監査体制		3
8. 法令遵守（コンプライアンス）の体制		
(1) 基本方針		3
(2) 法令遵守の体制		3
9. 金融ＡＤＲ制度への対応		4
10. 自己資本の状況		4
11. 主な事業の内容		5
 【経営資料】		
I 決算の状況		
1. 貸借対照表		15
2. 損益計算書		17
3. 注記表		19
4. 剰余金処分計算書		37
5. 部門別損益計算書		39
II 損益の状況		
1. 最近５事業年度の主要な経営指標		40
2. 利益総括表		40
3. 資金運用収支の内訳		41
4. 受取・支払利息の増減額		41
III 事業の概況		
1. 信用事業		
(1) 貯金に関する指標		42
①科目別貯金平均残高		42
②定期貯金残高		42
(2) 貸出金等に関する指標		42
①科目別貸出金平均残高		42
②貸出金の金利条件別内訳残高		42
③貸出金の担保別内訳残高		43
④債務保証見返額の担保別内訳残高		43
⑤貸出金の用途別内訳残高		43
⑥貸出金の業種別残高		44
⑦主要な農業関係の貸出金残高		44
⑧リスク管理債権の残高		45

⑨金融再生法開示債権の保全状況	46
⑩元本補てん契約のある信託に係る貸出金のリスク管理債権の状況	46
⑪貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	46
⑫貸出金償却の額	46
(3) 内国為替取扱実績	46
(4) 有価証券に関する指標	47
①種類別有価証券平均残高	47
②商品有価証券種類別平均残高	47
③有価証券残存期間別残高	47
(5) 有価証券の時価情報等	48
①有価証券の時価情報等	48
②金銭の信託の時価情報等	48
③デリバティブ取引、金融等デリバティブ取引、有価証券関連店頭デリバティブ取引	48
2. 共済取扱実績	
(1) 長期共済新契約高・長期共済保有高	49
(2) 医療系共済の入院共済金額保有高	49
(3) 介護共済・生活障害共済の共済金額保有高	49
(4) 年金共済の年金保有高	50
(5) 短期共済新契約高	50
3. その他事業実績等	
(1) 購買事業品目別取扱実績	51
(2) 販売事業品目別取扱実績	51
(3) 保管事業収支内訳	51
(4) 指導事業収支内訳	52
IV 経営諸指標	
1. 利益率	53
2. 貯貸率・貯証率	53
V 自己資本の充実の状況	
1. 自己資本の構成に関する事項	54
2. 自己資本の充実度に関する事項	56
3. 信用リスクに関する事項	58
4. 信用リスク削減手法に関する事項	62
5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	62
6. 証券化エクスポージャーに関する事項	62
7. 出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項	63
8. 金利リスクに関する事項	64
VI 連結情報	
1. グループの概況	66
(1) グループの事業系統図	66
(2) 子会社等の状況	66
(3) 連結事業概況	66
(4) 最近5年間の連結事業年度の重要な経営指標	66
(5) 連結貸借対照表	67
(6) 連結損益計算書	68
(7) 連結剰余金計算書	69
(8) 連結注記表	70
(9) 連結事業年度のリスク管理債権の状況	89
(10) 連結事業年度の事業別経常収益等	89

2. 連結自己資本の充実の状況	
（1）自己資本の構成に関する事項	90
（2）自己資本の充実度に関する事項	92
（3）信用リスクに関する事項	93
（4）信用リスク削減手法に関する事項	96
（5）派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	96
（6）証券化エクスポージャーに関する事項	96
（7）オペレーショナル・リスクに関する事項	96
（8）出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項	97
（9）金利リスクに関する事項	97

財務諸表の正確性等にかかる確認	98
-----------------	----

【JAの概要】

1. 組織機構図	99
2. 役員一覧	100
3. 組合員数	100
4. 組合員組織	101
5. 特定信用事業代理業者の状況	101
6. 地区一覧	101
7. 店舗一覧	102
8. 沿革・歩み	102

ごあいさつ

平素より J A 事業に対し特段のご理解と多大なるご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、2020 年は農林業センサスが実施されたところではありますが、前回 5 年前の 2015 年の調査によると、当 J A 管内の年齢別農業就業人口では、65 歳以上が全体の 62% を占めております。今回の調査でもこの割合は更に高くなることが想定され、高年齢者のリタイアにより農家数や耕地面積はますます減少する恐れがあります。

管内農家におきましても、農業従事者の高齢化や後継者問題、相次ぐ家畜伝染病への防疫対策等、さらに T P P 等の各種国際貿易協定などにより輸入農畜産物との競争が激化しております。

また、国内物価の伸び悩みから、日銀によるマイナス金利政策は当面維持されることが見込まれ、J A を含む各金融機関は収益確保が非常に厳しい状況であります。足元では金融機関の店舗統廃合、合理化に向けた業務運営の見直しが加速しつつあります。

農業・J A を取り巻く環境が厳しくなる中、J A 自己改革の実行を確実なものにするためには、経営基盤の確立・強化に向け、経済事業の収支改善や地域実態を踏まえた店舗再編などを重点的に取り組む必要があります。

第 8 次中期計画では、令和 3 年度の到達目標として販売品販売高を 47 億円にするとし、目標達成のための全体戦略として「農畜産物の販売単価の向上と出荷量の増加」を掲げております。その目標達成のための一つとして「安定した契約出荷の充実」という個別戦略を描いているところです。

将来にわたり持続可能で健全な経営を維持するため、営農経済部門を中心とした収益性のアップにも取り組んでまいります。さらに、J A 経営では安定経営の基盤づくりとして、業務の効率化、コストの削減および内部統制を強化するため施設整備の見直しを行うとしています。具体的には育苗センターの統合、赤城地区の経済店舗や金融店舗を統合することで費用の削減と施設の充実を目指します。

これからも組合員から信頼され必要とされる J A を目指し、組合員や利用者の負託にこたえられる新しい J A の姿を明らかにするために、「J A 北群渋川」と合併に向けて研究を深めてまいります。

J A 赤城たちばなは、組合員の皆様に必要とされる「総合 J A」であり続けるため役職員一丸となって自己改革に取り組んでまいります。

結びに、組合員の皆様には今後とも J A へのご理解とご協力をお願いするとともに、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

赤城橘農業協同組合
代表理事組合長 萩原一夫